

## 平成26年度第2回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成27年3月27日（金） 午後1時30分～3時10分
- 2 場 所：郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）  
吉田会長、本郷副会長、白井委員、今井委員、緒志委員  
（千葉市史編集委員会代表）  
池田委員長  
（事務局）  
朝生生涯学習部長、湯浅郷土博物館長、田中副館長、芦田主査、  
土屋主任主事、大関（囑託）、笹川（囑託）

### 4 議 題

- (1) 平成26年度事業報告について
- (2) 今後の事業予定（案）について
- (3) その他

### 5 議事の概要

- (1) 平成26年度事業報告について  
平成26年度に行われた事業について、史料調査・収集・整理事業、『史料編  
近現代』関係調査、市史等の刊行事業、編さん普及事業、市史研究事業、市史協  
力員（ボランティア）の活動の6つの項目に分けて説明し、承認された。
- (2) 今後の事業予定（案）について  
平成27年度の主な事業計画（案）、今後の刊行物について説明し、承認された。
- (3) その他  
特になし。

### 6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（田中副館長）より資料確認、朝生生涯学習部長より挨拶を行った。その後、  
司会より設置条例第5条第2項の規定により、この会議が成立する旨が告げられ開会。

吉田会長の挨拶に続いて、設置条例第5条第1項の規定により会長が議長となり議事  
に入った。

#### 議題1 平成26年度事業報告について

平成26年度に行われた事業について、上記6つの項目に分けて芦田主査が説明。

<質疑応答>

吉田会長：内容が多岐にわたるので、調査に関わる1～2（史料調査・収集・整理事業、『史料編 近現代』関係調査）とそれ以降（市史等の刊行事業、編さん普及事業、市史協力員の活動）に区切って議論したい。まずは1～2についてご意見・ご質問などがあれば伺いたい。

今井委員：町内自治会に手紙を出した結果、新たに2つの史料調査が実施されたとのことだが、全ての町内自治会に連絡を取ったのか。

事務局（土屋）：他に3つの町内自治会に手紙を出しているが、こちらについては、まだ返答をいただけていない。

今井委員：各々の町内自治会で諮ろうとしているのか。総会で諮るという町内自治会もあった。同様に、これから総会を開いて相談するところもあるのではないか。

事務局（土屋）：年度の切り替わりで自治会長などの役員が変わることもあるだろう。新年度以降に再度連絡をしていくつもりである。

今井委員：ぜひお願いしたい。

吉田会長：南部児童センターの史料について、内湾漁業権紛争関係の史料があるようだが、なぜ南部児童文化センターにあったのか。史料の形態は刊本なのか。

事務局（土屋）：先方もご存じなかった。著者が蘇我町在住だったため、その関係で入っていた可能性がある。史料は刊本に近い複製で、著者の写真が貼ってある。複写紙のようなものである。

白井委員：今井委員のお話にもあったが、働きかけの結果いくつかの史料が出てきたということなので、こうした働きかけについては、これからも引き続き行ってほしい。おそらく町内自治会レベルでは、持っている史料の重要性に対する意識がどうしても高くなく、破棄されてしまう可能性がある。その前に手を打つことは大事かと思う。

吉田会長：これまで、こういった項目での調査報告がなかった。今回の働きかけは、非常に重要である。

白井委員：新しい史料を見つけるうえで、積極的な働きかけを行うのは大事だと思う。

今井委員：土気公民館の収集史料については、当時の公民館長が土気市民センターの倉庫から収集したということであるが、移管に際し、どういった手続きをとったのか。

事務局（土屋）：現在と当時の公民館長に相談し、移管してくださることになった。

吉田会長：近現代関係の史料調査を進めているようだが、これについて池田委員長から何かあるか。

池田委員長：白井委員の仰るとおり、こちらからも史料収集に積極的に働きかけるべきであると、私も思う。編集委員は、これまで数年史料編刊行が凍結されていることもあり、事務局に史料収集を任せ、ただ傍観するような形が続いていた。これからは編集委員もできるだけ積極的に協力していきたいという考え方を、編集委員会でも持っている。どういった史料が必要かなど、編集委員の希望をできるだけ事務局へ伝えるようにし、市史編さん事業に積極的に関わってきたい。

吉田会長：編集委員会は、現状では年に何回開催しているのか。

池田委員長：年に1回開催し、編さん会議と同様に、事務局から報告を受け、それに対し意見を述べるという形である。市史研究講座で講師をする委員などは、別で調査に来ているかもしれないが、その他の編集委員については、編集委員会のある日の1回しか来ないことが多い。ボランティアでもいいので、できるだけ協力したいという意思はある。

吉田会長：今回会議資料に出されている『史料編 近現代』の構成案以上に、もっと細目まで含めて数年前にできあがっているということだったと思うが。

池田委員長：もちろん、史料収集が進んでいることもあるので、もう一度考え直す必要はあるが、戦前まで細目を作成している。

吉田会長：編集委員として市が正式に依頼して、事業がある程度進んだまま予算措置が講じられずに凍結というのは、モラルとしてもおかしいのではないかと。委員の方々はやる気があるのに、当面の見通しの説明も無いのはよろしくない。

池田委員長：先ほど漁業権の紛争の話が出たが、蘇我漁協について、現在実態はないとしても、漁業権を放棄したときに抱えていた史料や内湾埋立に関係した交渉の経過などを示す史料は、いまどこにあるのか。千葉漁協なども含め、千葉市内湾のそうした関連史料は、そもそもどういったところにストックされていくのか。

吉田会長：漁協の当時の責任者など、当事者をご存命ということであれば、そもそも聞き取りが可能であるし、史料もお持ちなのではないか。そうしたやらなくてはいけない、あるいはそういった条件がある調査分野について、踏み出せていないように思える。

緒志委員：今回新規受入の史料群について、どういった経緯で提供をうけたのか。一般的に、旧家の史料などは、そのまま埋もれてしまう史料が多いと思う。意識のある方は提供されるのだろうが、そうでないようなケースも多いのではないかと。こうした旧家をどうやって発掘しているのか。単に提供者からの連絡を待って収集していくのか、あるいは市の広報などで呼びかけをしているのか。

事務局（土屋）：基本的に新規受入の史料については、こちらからの働きかけた結果が多い。先程のお話のとおり、町内自治会については手紙を出して問い合わせた。以前に史料を整理したお宅には、ニューズレターを送る際に、呼びかけの手紙を同封し、その結果連絡をしてくださった方もあった。南部児童センターについては、施設が廃止されると聞いたので、古い史料があるかどうか調査をした結果、受入に至った。

緒志委員：一般のお宅などではどうなのか。古文書についての意識が無いと、そのまま埋もれてしまうケースが多いように思う。市の広報などで貴重な古文書などの提供をお願いするなど、広く呼びかけることはしないのか。

事務局（湯浅）：寄贈者に伺うと、「市の方で貴重なものを貰ってくれると聞いた」と仰ることがある。市の職員と知り合いであったり、講座を受けた際に聞いたりということもあるようだが、こうした伝聞の結果、家の建て替えを機に連絡をくださったお宅もある。何らかの広報を行い、市民の方々の頭のどこかに残っているというのが大事かと思う。ニューズレターや市史研究講座での呼びかけに加え、さまざまな形で広報活動を重ねていこうと思う。

緒志委員：より一層の努力、受け身でなく積極的に発掘していくという姿勢が必要だ  
と思う。

今井委員：町内自治会などについてだが、地区連協の会議があると思う。そうしたと  
ころを利用してはどうか。各区でもやっているし、市全体でもやっていたと思う。  
また、地区連協で年に2回ぐらいパンフレットのようなものを作成していると思  
う。この関連で話ができれば、個々に行くより反応が早いのではないか。近現代  
の先生方にこうした会議に短い時間でもお話をさせていただく、というアピール  
の仕方もあるのではないか。

事務局（湯浅）：市内に新しい地域・古い地域が混在しているが、地域の方々がより  
集まる区単位（区連協）の総会など、区レベルで広報すると効果が得られそうな  
ので、検討したい。

白井委員：実際に説明があると、重要性がより理解できると思う。ぜひ検討してい  
たきたい。

本郷副会長：散逸を防ぐという点で、もちろん悉皆的な史料収集も大事だが、『史料  
編 近現代』の現状については広報しているのか。市としての目標があることを  
示せていないのではないかと。ただ漫然と集めていても、かえって焦点がぼけて  
しまうのではないか。

吉田会長：目標は決まっても、実行の条件が整わないこともある。

緒志委員：別の市であるが、自治会長をしていた時、段ボールで五箱ぐらいの引継書  
類があった。実際に全て中身を見ることはできなかった。一般の町内自治会も、  
そうしたところがほとんどではないか。公のものだから捨ててしまうことは無く、  
持ち回りしているが、こうした市史編さん事業に有用であるという認識は恐らく  
ない。

本郷副会長：自治会長が持ち回りで保管しているのか。

緒志委員：自治会館などもあるが、大事なものだという意識はあるので、任期中は自  
治会長の自宅で保管ということだった。恐らく千葉市でも多くの自治会長の認識  
は同じようなものなのではないか。

今井委員：一部は自治会館に置いてあるところもある。自治会長が直接持ち回りで引  
き継ぐのは、頻繁に見ることがある土地関係のものや、町内の財産に関わる備品  
台帳のようなものが多い。そうではない出納帳簿などの関係は、自治会館に保管  
してあることもあるようだが、こちらについても、最近では情報公開の絡みで、  
簡単に見ることができない。

吉田会長：本来、所在調査・収集は公開・閲覧までを視野に入れて考えるべきで、こ  
れは公文書館でやるべき問題である。市の方で提示しないため、現状では市史編  
さん事業の中で可能な限りフォローしているが、スタッフも少ない。編さん委員  
が部分的にボランティアのような形でサポートに入るなどして、細々繋いでいる  
という状況である。寄託・寄贈で入ってきたり、調査した結果で得られたりした  
史料の情報は、どのようにアウトプットをすることを考えているのか。提供した  
方も含め、研究者や市民の閲覧に対し制度として確立されていないため、調査が  
しにくくなっている。そうしたアーカイブズについて、千葉市が何をしているの

かが市民によく見えないことも、調査が進まない原因のひとつなのではないか。  
続いて、3～6の内容について議論していきたい。

吉田会長：古文書講座の回数を増やしたとのことだが、受講者の反応はどうか。回数を増やしたことは伝わっているのか。

事務局（芦田）：完全に抽選であり、またリピーターが少なくなってきた、新規で参加される方が多くなっている、増えたという印象を持ってはいないかもしれない。

吉田会長：中級古文書講座の応募が多いようだが、これは何に起因するのか。初級を終えた方が中級を受けているのか。

事務局（芦田）：初級は午前・午後の2コース同時に募集をかけている。しばらくしてから中級を募集するというので応募時期がずれている結果かと思う。初級の2コースを足すと、やはり初級の人気が高いということになる。

本郷副会長：中級を受講するのは、初級の経験者のみなのか。

事務局（芦田）：応募条件には、経験のある方という文言を入れているが、必ずしも経験者ばかりではない。

事務局（湯浅）：過去に受講経験がある方がいることもアンケート結果からはみえるので、回数の増減についてお気づきの方もいるとは思う。市史研究講座の方でも、回数が2回になったということについて、ご存じの方はいらした。

白井委員：古文書講座は郷土博物館の講座室で開催していて、40人が限界とのことだが、当選した方が必ずしも全員受講していないようだ。6回の間で段々人数が少なくなってもいるようなので、それを見越してもう少し多めに当選させることはできないのか。

吉田会長：経験上、40人に古文書を教えるのはなかなか難しい。20人前後がせいぜいかと思う。40人の中に何人か読める人がいれば、その方をチューターとして班を編成して自主的にやってもらうという形も可能だと思うが、すべてが初心者で40人では相当大変かと思うが、どのような形で実施しているのか。

事務局（芦田）：現状では講義形式をとっている。今後、ゼミ的な形式の古文書講座についても考えられる。初級や中級とは別の形になるかと思う。

吉田会長：中級受講者で、ある程度読める方にボランティアで初級の方に教えるようなサブゼミのようなものを作ってはいただいてはどうか。

事務局（芦田）：ご協力いただける方がいれば、検討したい。

緒志委員：地元で20人くらいの古文書勉強会に参加しているが、何人かで集まって予習会をしている。こうしたことがより勉強になる。

吉田会長：では、研究会やボランティアの活動についてはどうか。以前からオーラルヒストリーの研究会を起ち上げると言いつつ着手できていないが、近現代史で、「江戸と千葉」研究会のように、市史編さん事業をにらんだ独自の研究会のようなものを起ち上げることは可能か。

池田委員長：編集委員の多くの委員が千葉歴史学会の会員である。千葉歴史学会近現代史部会が千葉市史編集委員会近現代史部会のような感じにはなっている。こちらで会場を貸して頂けるのであれば、研究会のような形でできるかもしれない。

吉田会長：共催という形にして、市史編さん事業に内容を反映させることも考えられるだろう。続いて議題2に移りたい。

## 議題2 今後の事業予定について

平成27年度に計画されている史料調査・収集・整理事業、普及事業、市史などの刊行事業及び今後の刊行物について芦田主査が説明。

### <質疑応答>

吉田会長：では、議題2について何かご意見・ご質問があればお願いしたい。ブックレットの件で説明があったが、実現の可能性があると考えてよいか。

事務局（芦田）：千葉氏について、学校で使う分かり易い副読本などを市長部局では想定しているようだ。ただし、市民に広く認知される必要があるという点では一致するので、なんとか関われる方法がないかを考えていきたい。

池田委員長：以前から何度か申しあげているが、平成33年は市制施行100周年である。あと6年しかないのだが、大きな節目なので、市でもイベントなどの企画があるのだろうと思う。その行事のひとつとして、歴史を振り返ってみるような企画はあって然るべきかと思うが、そうしたところに近現代の史料編の予算をうまくのせていけないのか。以前から言っていることだが、この100周年を大義名分に史料編刊行の凍結を解くことはできるのではないか。市としては100周年に向けて、どういった取り組みを行う予定なのか。

事務局（湯浅）：市でも100周年という認識は持っている。ただ予算も含め、まだ具体的には動いていない。都市アイデンティティの関係で、千葉氏の絡みも含めて、市長部局からいろいろと問い合わせ等はきている。

朝生部長：6年先に控えた喫緊の事項であるので、できる限り都市アイデンティティの部分を含め、市民の方々の郷土愛の意識の向上をはかるということと、他市・他県へ千葉市をアピールしてくことなど考えてはいるが、これから具体的に詰めていく。これから加速度的に動いていくことになると思う。文化財保護行政についてもより強化していく中、4月から生涯学習部の中に、博物館なども所管する文化財課を新たに設けていく。また、27～28年度に郷土博物館のあり方について研究し、今後のあり方についてまとめを出していくことになっている。場合によっては、編さん委員の先生方にもご意見等を伺うこともあるかもしれない。

今井委員：文書館の設置についてはどうか。

朝生部長：文書館の設置については、全く未定であるが、本来的には機能的なものは必要だろうと考えている。それを含めて、郷土博物館の今後のあり方を考えていくつもりである。

本郷副会長：90周年の時にも同様のことを言ったと思うが、100周年は本当に大事な節目である。イベントの企画は後でもできるが、近現代の史料編を作るような事業については、今すぐにも着手しなければ間に合わない。この認識を市の方でも共有してほしい。

吉田会長：近現代の史料編については、予算措置が講じられれば、すぐにも編集に

着手できるはずである。

池田委員長：内容の再検討は必要だが、ゼロではないので、着手できると思う。ただ、ある程度長期的な計画でないときちんとしたものはできない。ブックレットも含めてだが、そう簡単に出来るものではない。

朝生部長：いずれにしても、100周年は大きな節目であり、それぞれの分野を有機的に結びつけながら行っていきたい。お話のあった市史編さん事業の部分についても意識していきたい。

白井委員：講座のアンケート結果を見ると、市史関係刊行物を持っているという人が少ない。歴史に興味がある方でもこういった結果であることを考えると、一般の方はもっと関心が低いだろうと思う。刊行したものを使いながら市史研究講座を実施するなどして、普及させていくことも必要なのではないか。それが市史編さん事業の重要性を市民にも知らせることにつながるだろう。史料編なども、なかなか一般の方には読みづらい。使い方・読み方を教える講座があってもいいのではないか。

吉田会長：いまの発言との関係で、現在、崙書房出版から『史料でよむ千葉市の今むかし』を刊行すべく準備をしている。これは『千葉いまむかし』で連載している紙上古文書講座をベースに、何本か書き下ろしを追加して、古文書をどう読んで分析するかを分かり易く解説しようとしたものである。白井委員が仰ったように、これまで出版した刊行物を含む研究活動から、内容のストックはたくさんあるのだから、こうした企画はいくらでもできると思う。市の枠組みではなかなか実現が難しいかもしれないが、検討して頂きたい。では、他に何かあるか。無ければ議題3に移る。

### 議題3 その他

#### <質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

湯浅館長の進行により平成26年度第2回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当  
TEL 043-222-8231